



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.299
2022/3/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

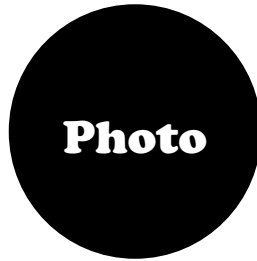
GREEN COLUMN

01. 影の立役者？

02. 生きものの名前



今月の一枚



「雪景色」

表紙写真・文／久保田結衣

町内在住の画家横森政明は「街の眺め」シリーズとして、美幌町の冬の街並みを多数描きました。そのほとんどの作品は、真っ白な雪景色に、美幌小学校のエメラルドグリーンの屋根が象徴的に描かれており、この風景を見るといつもその作品群を思い出します。

冬の間は馴染みのある風景ですが、雪の日も徐々に減っていき、雪解けの季節は近いのかなあ、と少々寂しさを感じます。

Event. 今月のイベント

ロビー上映会「みどりの村でわくわく植物観察会」 ～3月25日（金）

企画展「冬季作品展」 ～3月6日（日）

ロビー展「ひな祭りとひな人形」 ～3月3日（木）

プチ工房「チューブブレスレット」 3月18日（金）, 19日（土）

博物館講座（総合編）「私たちのふるさと情報」 3月26日（土）

特別展「びほろ町4公園の植物図鑑」 3月26日（土）～10月23日（日）

Information. 参加者募集

プチ工房「チューブブレスレット」

●3/18（金）, 19（土）①10:00 開始, ②11:00 開始, ③14:00 開始, ④15:00 開始, 所要時間30分, 作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階 講座室 ●参加費300円, マスク ●八重柏誠（美幌博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（-3/17）。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

博物館講座（総合編）「私たちのふるさと情報」

●3/26（土）10:00-12:00 ●美幌町民会館3F 中ホール ●無料, マスク ●美幌高等学校生徒, 三橋弘宗氏（人と自然の博物館）, 工藤知美氏（EnVison 環境事務所）, 美幌博物館学芸員 ●美幌博物館へ電話申込み（3/1-25）。小学生以下は保護者の同伴が必要, 定員50名で締切, 定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 発熱がある, あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは, 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により, 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上, ご参加ください。

今月の休館日

7日, 14日
22日, 28日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

影の 立役者？

絵・文／久保田結衣



一 カワは、動物の皮を煮た時に出る粘着質のある成分です。紀元前の頃から糊の役割を果たしていたとされています。日本においては、7世紀頃、墨とともに伝来したと言われています。とても長い歴史のあるニカワは、今日私たち生活の中でも、接着材として使われることが多く、身近な存在と言えます。

美術の世界では、墨の他に日本画で使用する岩絵の具、水墨画や日本画で使用する和紙、油絵で使用するキャンバスなどで使われています。

絵の具は、色の素となる「顔料」と糊の役割を果たす「展色材」から成り立っています。顔料を水で溶いて塗っても、紙などの支持体に定着することができません。そこで展色材を混ぜることによって、支持体に定着させることができます。特に岩絵の具は、顔料の粒子が荒いものも多く、強力な接着

力を持つニカワととても相性が良いのです。また、顔料本来の色に近い色で塗布することが可能です。また、書画や日本画で使う和紙では、ドーサ引きという形でニカワを使用します。これはミョウバン、水と合わせて液体を作り、和紙にまんべんなく塗布する作業のことを指します。この工程を行うことで、絵の具がにじむのを防ぎ、発色の良い和紙を作ることができます。

キャンバスを作成する工程でも、油絵の具のにじみ防止のためにニカワを塗布します。この上からジェッソを被せることで、油絵の具がきれいに発色するキャンバスができます。

今日でも様々な用途で活躍するニカワ。美術においてもこれを利用しよう！という昔の人たちの発想と知恵には本当に感心させられます。少々地味ですが、ニカワは美術を支える影の立役者と言えるのかもしれません。



先般、「オシリカジリムシ」という新種の甲殻類こうかくが日本で発見されたというニュースが流れました。とてもユニークな名前だということで話題となりました。命名された鹿児島大学の先生は、「親しみやすい名前にして、身近に興味を感じてもらえれば」と話されていました。

ます。

実は、コエンマムシは、動物の糞^{ふん}などによく集まるハエの仲間の幼虫などを食べます。糞に集まる虫の仲間には、他にダイコクコガネ（大黒黄金）、エンマコガネ（閻魔黄金）などという名前を持ち、糞を食べる昆虫（糞虫：フンチュウ）もいるのですが、いずれも神様（恵比寿大黒様、閻魔大王）の名前がつけられています。“閻魔”という名前の由来には、「死体に集まる習性があるから」…など諸説あるようですが、確かなことは不明です。古代エジプトでは、糞虫が糞を転がして球にする様が神秘的であることから、人々はこの昆虫を神聖視していたとも言われています。

昆虫に限らず、生きものの名前の由来を調べてみると、意外と面白い事実を知ることができます（写真は、美幌町で見られる糞虫のオオセンチコガネ）。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

足を載せるとブルブル振動して、足筋肉を刺激する器具を使い始めました。骨に振動を与えると、長寿命化に関わる遺伝子機能を、活性化させることが判明しているのだそうです。とは言え、治療中の高血圧・脂肪肝を早く治さないと、短寿命化は避けられないのですが…。(鬼丸)